

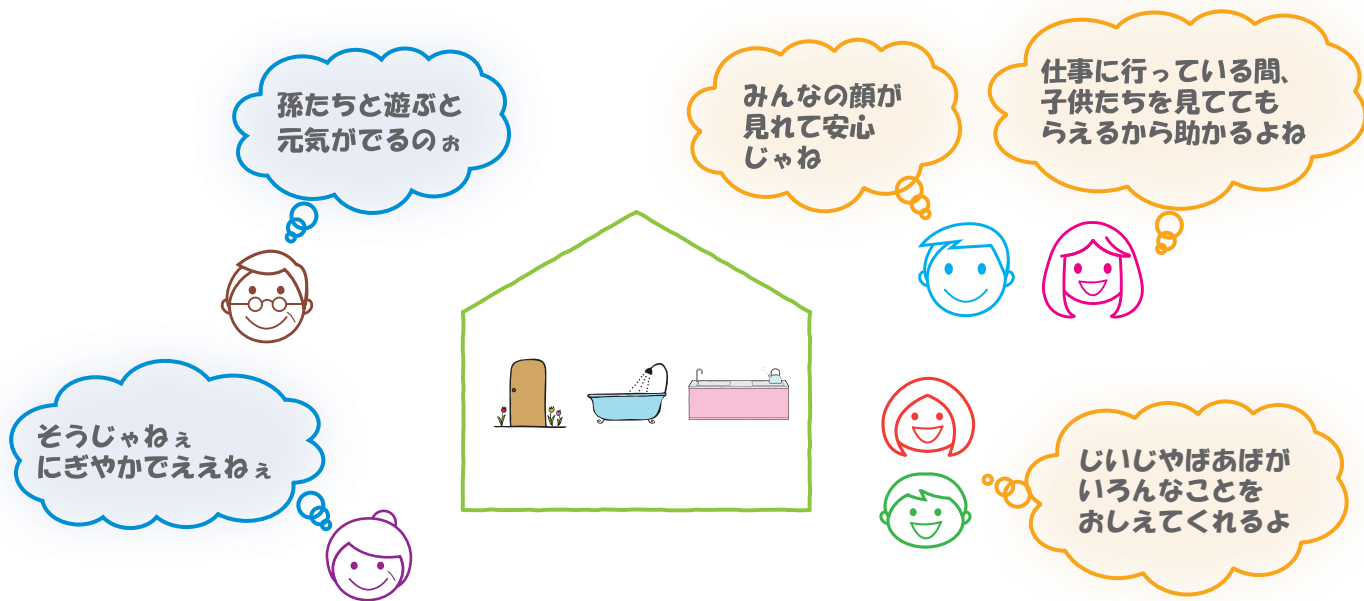
同居のかたち

共有する部分がある住宅

すべて共有タイプ

共有：玄関、お風呂、LDK

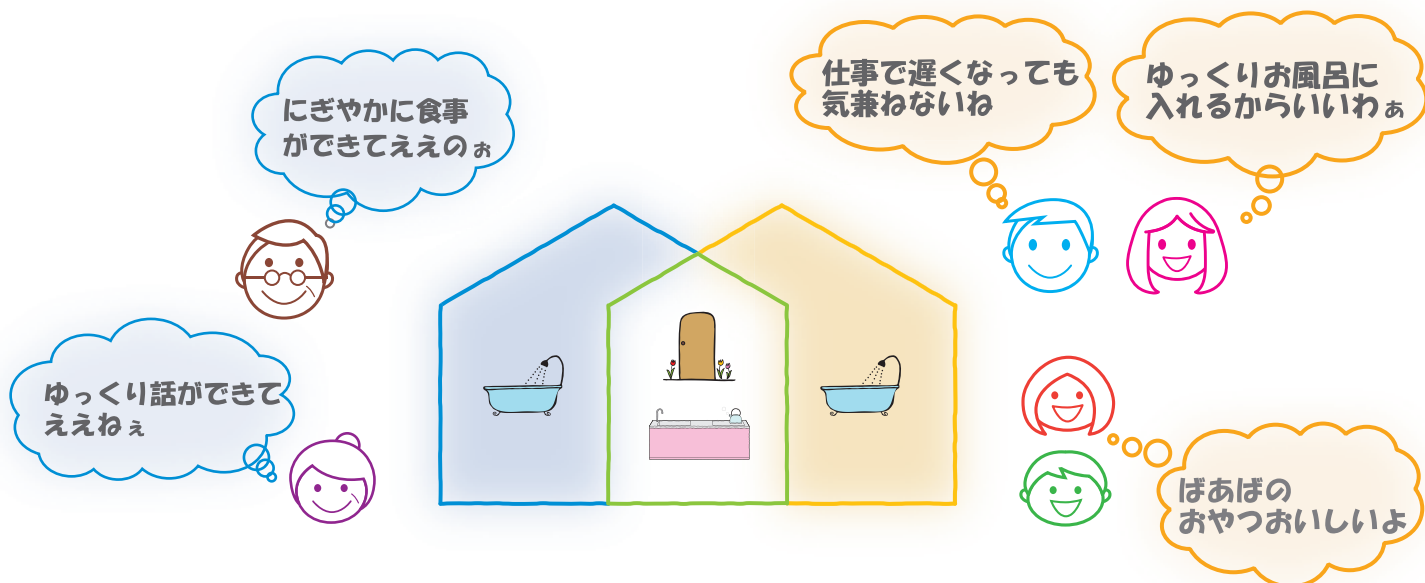
それぞれの寝室以外はすべて共有し、三世代がほとんど同じ空間で生活する。
子どもが大きくなった時を想定し、シャワールームやミニキッチンを作っておくと安心。



ほどほど共有タイプ 1

共有：玄関、LDK

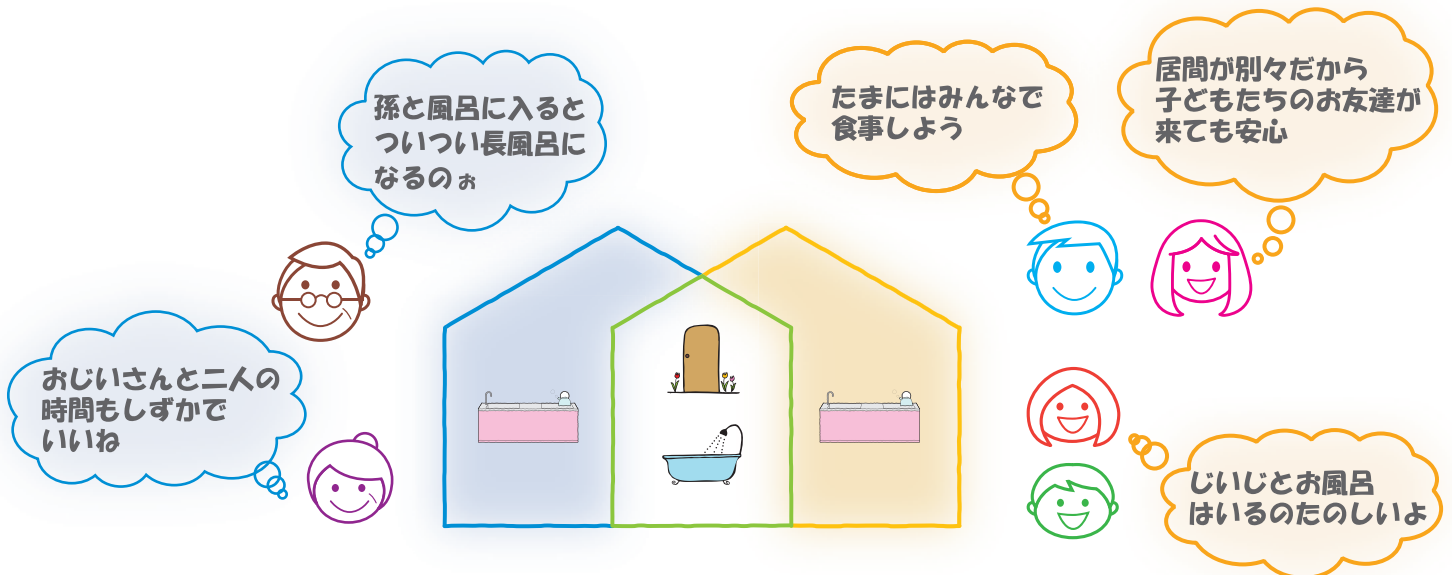
お風呂はそれぞれ好きな時間に入りたい。けれど、食事や団らんは一緒にしたい。
ミニキッチンを作っておけば夜中に小腹がすいた時、お茶を飲みたい時に便利。



ほどほど共有タイプ2

共有：玄関、お風呂

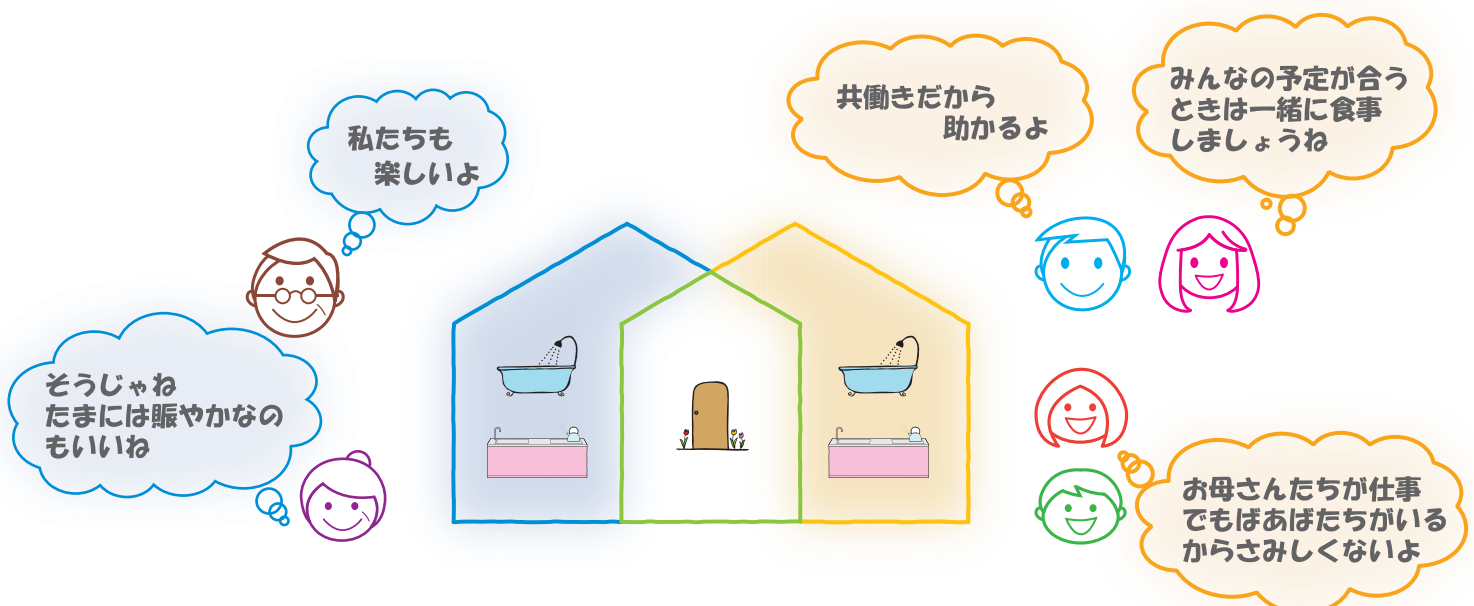
各世帯に別々の来客が多い場合にLDKがそれぞれにあると気兼ねなく過ごしやすい。シャワールームがあると、帰宅が遅くなった時に気を遣わなくていいので安心。



玄関のみ共有タイプ

共有：玄関

玄関は一緒に、その他はすべてそれぞれの世帯で別々なのでプライバシーが保てる。日常生活は別々でも、お互い近くに居ることで心強い。



同居のかたち

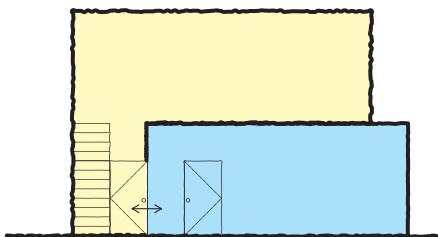
全てが分離している住宅

一緒に暮らす安心感。プライバシーの確保。広い敷地と建築コストは気になるものの、各世帯が独立した生活空間を持てるスタイル。将来は賃貸にすることも可能。

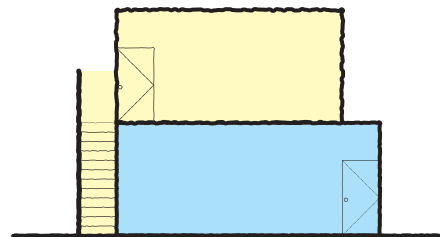
親世帯

子世帯

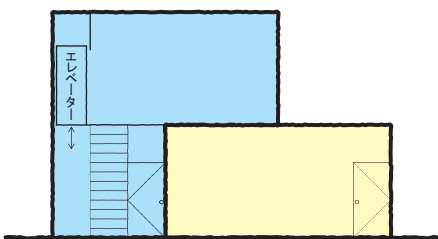
上下で暮らす



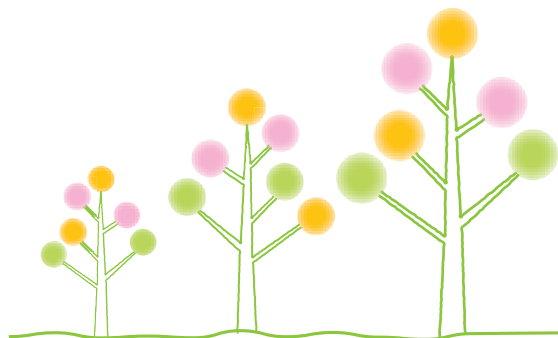
親、子世帯の玄関をそれぞれ1階に設ける。



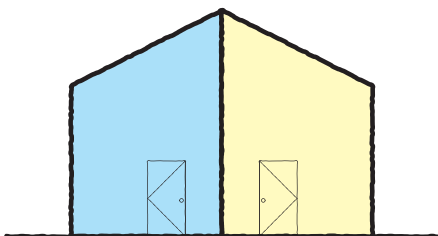
親世帯の玄関は1階。
子世帯の玄関は外階段で2階。



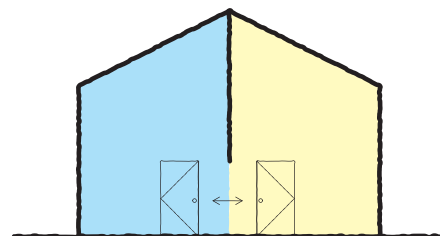
親世帯は日当たりの良い二階へ。
共に年をとるもの。
将来を見据え、コストはかかるが
ホームエレベーターを設置する。



左右で暮らす

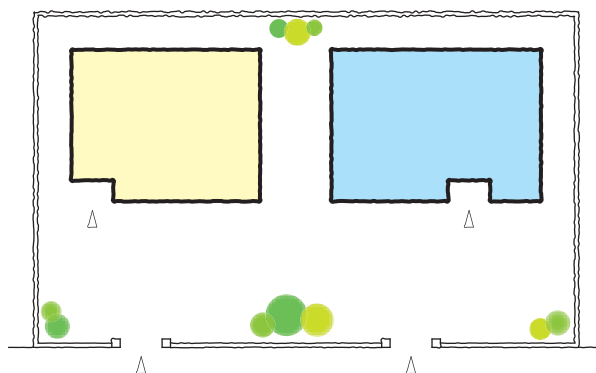


長屋スタイルで、独立生活重視。
生活音の問題も比較的少ない。

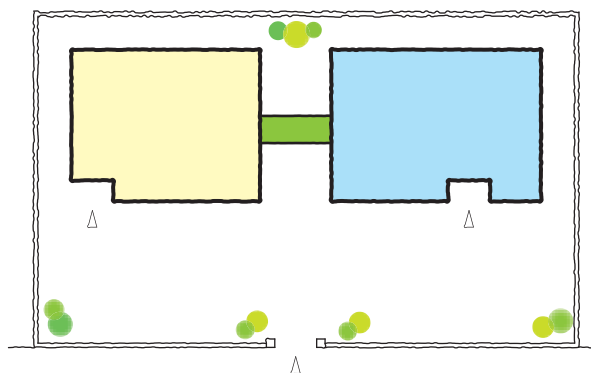


内部で行き来できるようにすると便利。

離れて暮らす

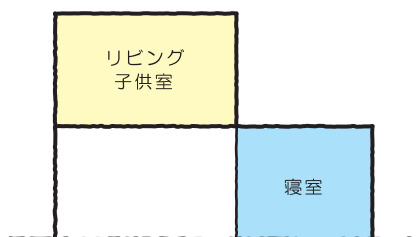


実家のとなりに土地があったら...
スープの冷めない距離で安心して暮らす。

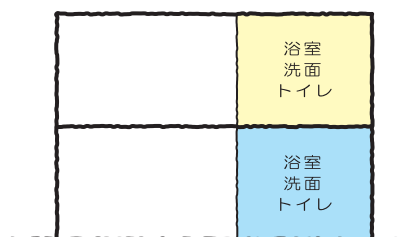


わたり廊下でつなく...
お互いの行き来が楽。

気配りと交流

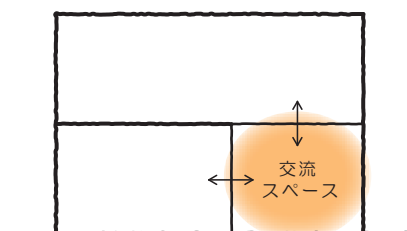


遅い帰宅や生活音の気遣い解消のため
親世帯の寝室の上や隣に子世帯のリビ
ングや子供室は配置しない。



浴室、洗面、トイレなどの水回りは
上下階とも同じエリアにまとめると
生活音が気にならない。

孫との交流は大切



孫との交流スペースや室内で行き来
できる連絡ドアなどの工夫があると
良い。